Nagoya University Library

筆の愛

名大図書
911.204
I

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
1 / 29

Nagoya University Library

44016

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
2 / 29

Nagoya University Library

911.2
H

定暦八首ゑ此京をたちて東たいの松とうの山さま
ゝうすゝらさ此御代八幡代や知るゝんあ
原此風ゝ川ゝゑ此法のちゝさゝ事もた
ひとゝゑ松ゑとゝ保元の乱ふあゝそひゝ
く松山此土とゝ世治ひ平家右馬頭ゑ世ゝみ
ゝ此ゝ井ゝ三族の最ゝ行ゝ乱ゝ時ゝ
うつゝすゝやこ此ゝ八ゝ川ゝゝ寿永二年の秋
法印此軍勢をい治此後ゝ平家此一族
のゝゝゝ百官の家ゝ八法皇な
ゝゝゝ建武三の乱ゝ首ゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
3 / 29

Nagoya University Library

やう仁行をそなと二条四位殿美工して累代乃
御寶物とし失ましうしう今ハ世よりひろく行れ
ことの数十もあるさうなり後白ハ此雅をあけら
もて事と度に及ぶるや歌道の法ハ小野
三位とうたれ人のとく仁なせ給ひ中もて之く
さたなうと吉野ハ北方と仁うりもとしはる事
ゆあるまじと文和乃御門の勅うまもせられて文
これうちハあらたに有まふ様よるとうとれうと
自ハ此きうひとおそもまうして大つ石山の雲
よたうまうの勅ひあるまう小路乃月はうさうせお

りまうさまとおとれる事とのうもうの歌
ひて還幸なうせ給ひ者とたりすくせく今ハ絶末
ろうとく変ハ行ろハ無仁のとれそも小そ絶ぬ今九
さうのうち二条うう小はうはうはうはうはう禁裏仙洞ハ外ハ
祇官大政官をうしそて百官諸司の居所一宇も
のこらず咸陽宮ハ焼となりて姫薇巻ハ露のも
ぬうう手ハうなりうりこうき人のうさうふうるもん
三葉四葉ハあるハ折ハそきて行ってうあるねつく
ひとうの世ハそそ手こうしうしうもうをなうて
蜻ハ巣のうくるこうと東山西山ハ堂塔とうくる

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
―「筆の愛」
10044016
4 / 29

Nagoya University Library

風さそふをまつ花ぞ今ハ一すの春をも
のこす八重のしら雲あとをかくしむハうなる
ことをおこすをさそふハかぜこそ花ハ
事なるあさうらうの時ハまて釈迦ほとけ
をもてあそぶにむかひてをりをり
ましうしなんとをもひ唐漢のたぐひ海
をへてたゞしたゞしかよをうをもとせ
かひの家ハおこすをきハめ数をぬとかゝ浪
をもむゆへあるこゝ山の行者をもんをうき寺の
あるところ貝殻入るとこそ花をも仏法を法

ぬかの奢き時ゐて法をもとなをるちゝ
さあるをや今ハ彩虎のたぐひよなう行をもう
たきしかるをもとにかるひさしかをうをを
ゐまうをくをうをみ行をも漢家の数をの行
をもとなをたあるさをハあるやけのゆをうをて
武家をもたをけらをもを家をとを今一分をこをれ
ようしをうをうをうをうをハ世をのをうをハ
あひ行をこをに枇の名をあるよ情をすををもはを
なをあををれををあをうをを山庫のをうををて丹をハ
のをうを行をもををををををををををををををを

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
5 / 29

Nagoya University Library

人をもくうもうをいてゝ六九条
九条のゐんとうをつくりてゝ
いくかもとなく一斤九
なをたうの一字九文庫をうつを書をかう
きうしたや仏編よハのをたうしてこゝをわうれ
しら法とゝうこゝをうて錦帛をおさめ玉
たうとやおりハ人間のをとうに彼く枚百合九
三九すこうをうちうて十仏代家よつゝ和漢九
籍ゝ一巻ゝ九こうすうより老鶴の巣をゝ九
青田九つゝをうしうゝ九とれをすゝ切ゝも新集九

玖波をえうゝ九れ侍しゝ後其前新たゝ九事人ゝ九
ゝ九侍りしゝたゝくありひうて先代のゝゝをゝを心
九をうゝうハあゝ九つゝく新玉集とゝ九けゝ事九
草をゝまゝうゝ侍りしゝをゝいつゝ人ゝうゝ九ゝ
世紀ゝもゝしら九御ゝ九うゝをゝ九ゝ九ゝ
てゝりやすうゝ九ゝまゝやゝ九きゝてゝしゝハつゝ九人ゝ孫の
うゝ乃八月九末つゝく又九条の殿ゝうを三月ゝ九
京九ゝをゝを春日の神のひゝさおゝむゝうゝを
あすきたゝてまゝりゝを三笠山九ゝて九ゝうゝ侍
りゝ殿ゝうを侍ゝ九いくゝをゝひ九ゝ志ゝゝをゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
6 / 29

Nagoya University Library

ていさ先の眠をしやすもりやに行きて強れ枝子
の葉と諸ちらくみれく桂木の霜と雪たれ
風情して四し音し行るなとそしてや青
林よりふりはしくのあまりるさ也歌れつ
けりをあつてそれよ又ありるる四ふりれりる
一しをそれすきひよ古行く神学れこしりた心
をはけ古うんこ知ひ行るそりて後れあさり
をうへりをうをうをりらし

去方すきて秋りりそを

宮ちりる又いりなりんこ農杜　教浜法師

家路帰りを八未の世れ人九ときて後の羽院八作是
行れ古りハ行屋に教浜を八ちりき世れ歌の
りりふれ我りり行りへき初心のりりもりハりもりりりる
ひきを海るひ行りりへこふふりて春夏をく秋にて
なりをりへりる也歌れ行りる貴人八雅りりきこて多
むちりあなさりりの名ふしてと外りりも
りりのひ行りて九りり行りりりて字のりにを桂
合りる海へりりれ是行也りに又三年ぬかりの房
草末なりれいひりりり行りハ同風情りりる逸
大りりりりし合りりて行りりへハ花月れ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
7 / 29

Nagoya University Library

京都の東成とかいふ所にしてひもじき秋土れな
ゝ八あるゝへしいたとはなるぬるゝ東しかたて
深草の里の柴のかりそめにてもあるくあり秋の
八幡宮まゐるゝ人八稲刀んこうの色をそへ文ハ
木立のもいろ〳〵にて秋八紅葉ふ所おりく作り
三季ゆとすくふなりもおりもいまハそれ音なたの
こゝろをんをもけ雪れこゝをおりひやとかるれ色れ
及へきこゝろゝあるをや柿はなをふと又梅
しまにもさうあひかりて如ふ〳〵ふ作て
う南庭れ俗をもけく詩ひかるへきたもくと

思葉して丸なるゝ色しおゝ形ゝ心ゝ〳〵ゝ作ひ將
ゝゝこゝろゝ詩をそれすさひ小作るへ十二れ稲学
れゝゝハのたゝゝ書作をハ出それんゆつきゝゝん詩
実詩ゝをゝれゝ校の色の詩
大ゝ奇秋小文ハ文ハをのつゝ〳〵其中に義へきゝ物ゝ
花れゝゝ〳〵いゝ文をもかひゝゝ心ある今ゝや又
秋小ゝをなれとゝゝは実ゝを詩ゝゝ作をハ稲秋小
なゝとしゝ次をゝ文ハ所ゝゝのゝゝゝれゝゝに半
て作ゝへきゝゝあひ作ゝハゝゝ
ををかゝれゝゝゝの鷹れをゝたゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
8 / 29

Nagoya University Library

あぢさゐ花やあれ　三年のうち動花ハい
さくらかりうへきうしやや

初出くゝ関こて川しら河や

能因法師の家ちらしたるうにかて
てありひとり作りていさうの大屋のうの机をとさき
れ句としたをね風ほとを作ける

春れ衰もハいなとあひのう

あもしれ今ハつさかる老う牙ふ　救海
はつさかるハうしかるわ牙合に作ると一句農な
るうてありしくきこて作りは前句ふ又板れ

かへてしあるふけくるしるのあそれとあ
もハ秋れを射してハいう作へき

稲ハうこあれしゆ色ほきふ
月ちしらあや海ふなうう人

すつる所ハ我新れうなひく　救海
深山う拾月ちて月ちしらあれ新ハうなる
数戸ありしくハ作手や先ハ又汀ちうへてうし
かるぬうあひうまとうし

あやれ衰ハうう手悟れ作やうて
年うてはいたちかへうれ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
9 / 29

Nagoya University Library

老ぬれハとけるうし心ゝて　　救渕

花の白ハたる其始の世なる成老ぬ立ゆて紛の

其世ものしをけ行る世俗よ老て二ひちこになる

といふる世ゝや其花白よ吉野山霧こ有ゝ

なゝ其花宮其物多のまゝ所ゝ心ゝ立ひ小蓋ゝ

答れ心ゝ其ゝ花ひ其なれゝ世ゝ川ゝ

へて中行ゝ

三ゝ月八月ゝ月のゝ中ゝ

たゝ一ゝ秋ゝ

草ふゝく毛ゝ車ゝ野ゝ

救渕

き被ふゝ人の白ゝ其ゝ一白ゝ姿ゝ

乃ゝ八思葉ゝ其ゝ花ゝ白ゝ

ひゝく野ふゝ草ゝ間の仮ゝ

しく行ゝ其花乃人車ふゝ

かゝしゝ人ゝ

去年ゝ行ふ霧ゝ

飛乃むゝひハゝ

月殘ゝ有ゝ

出ゝ前ゝ白ゝ行ゝ

雖ゝ有ゝ

救渕

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
10 / 29

Nagoya University Library

凡眼をおとろかす作うの所持する風流に対して
八瓶の秋すゝきを取りたる故尊生の心をうつし
見よ西さまを所詮見八人る所不知てるかるゝ事
えを作り柳教生の業を新しく作るとしさう
又知しまを我えくに作るんう
うけのをハ消すれ塗れいのうて
又他花戒の四句
つまく我をくおもきさまをも
落てハ為れうんよ世あまを
夜川の入江の例為るうらのく　板所

水れうんの落ちを夜河れ羽よりうなる作詩
乃うやうに作りうくそあるまりく作をれ自小
取りをうん作りく
おの山乃影れなるもハをとなて
源氏れ夕雪の巻小義れ宮のうん居うやと
以作るんと作り文のことハ乃高れ影をりひよ
せ作りんく
和文れちきうんく詩ひ
夕かれれを来乃雪のむうく　後雪之図模改
を言れ自よハ少人きことを文於年河とる代義

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
11 / 29

Nagoya University Library

九月よハ釈子より法華の字ハ分経ハ一巻一日乃
法ひさ四優よきて行うと文と又ハ分日ハ分ハ
行ふ

当とうれうき菓とと同分数米
七墨のとき乃使ハふれ来く
伊勢物語ハ業平の中将の母七墨よりてハ
うとくと文おこそう同よ光ハ色ハさうハ別の色
ハ以ハ出ハ事と思うとせり
然れ故をせう同ハ九ハ
八月のうたハ分ハ　日ハ

毛と然とう同ハ分ハ形絵のみ字ハ月九輪ハ然ハ
そうふよつけ色ハ行ふ色ハ神をのそきくハ
行ふ人ハ別九業よハ七せく
うハ行ハ米ハ拙よのうハ色をしつまて
あうハ我のうよ法華うう稽
稽くうさ手ハうハしあて
あうハ所ハ夏あうハ九ハ　日ハ
色ハ燈蛾といふ九ハ事ハ也色ハ又風情をうと付
行ハうくこと中ハきうハ
たまハ也ハ稽きうくと白ハう

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
12 / 29

庭なる花乃枝をとらせて題

山ぢの菓をもていふに添くらん　良阿

翁曰良阿といふ俳しハ俳云ふにしおらぬ達者にて俳り
あるれもや此付句なるにしいおりひとる風情を俳り
らるれ木乃枝をあるかをみてかくいひけらる家に
くこまかきことも俳ろ物られ志りと見える菓をはなる
の事お残りらかる句りとて俳之しもし文二ヶ月捨合
俳りもいふ付句乃手翻文言題をもて
く
翁いハく山里人のもりもひ
山里より入りしをそらといひ庭の花をたりそて
く

翁曰あらさる心にあひ付乃前に句を合を
此句作論を小車にしろめ志て付ける木の枝

小車にたちをは花りまくまそて　良阿

かゝる比にかゝる春乃三ヶ月
にしいへて三ヶ月かをしいたまへきやこそれおほ月
よそにしてしよるなる寄ける句之

おやれ山さやみけりしけるら年

持人乃矢さきの鹿のあらこかり　良阿

あやうにかくかける句にて俳りもとこり人偏て
ありしの句なりし事なる千し高数にそきたいのるを

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
13 / 29

Nagoya University Library

うしなふべきさうそ四こと[illegible]あつれ[illegible]ぬきこえ行を又
色うをえて一句を[illegible]行

うい杖とよふるそうの小[illegible]

老八泊瑜の杖[illegible]注[illegible]変也泊瑜とゝ[illegible]也世ふうを
てのさうゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]
杖をうゝも時八注ゝゝ[illegible]ゝ迷ゝとなりて
ゝゝゝゝゝさ八毋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
[illegible]也毋の年ゝゝゝ年をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]行のゝゝゝ

ゝけとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝゝゝけ

[illegible]人のりて分扇や海ゝ月　良ゝ
ゝゝけ小海ゝ月ゝゝゝて也[illegible]ゝ白ゝゝゝ八文ゝ[illegible]
ゝゝゝ大年ゝ八老行也

行馬ゝ鞍ゝの山農ゝゝ川やゝ
骨ゝゝゝゝ常の年なゝゝゝゝゝゝけゝ[illegible]
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いかゝゆゝ人ゝ谷一なゝ
松ゝゝゝ風ゝゝゝゝゝゝの[illegible]　同阿

同阿八坂と云名字の物也世のゝゝゝに行侍と教
同行ゝゝゝゝゝゝ年をゝ[illegible]ゝゝ芳を[illegible]ゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
14 / 29

たとへハ古今貫之か序に人麿ハ赤人かかみにたゝんこと
かたく赤人ハ人丸か下にたゝん事かたしと書るこそ
此詞にて彼をハさしおきへき也谷一小集をおもひや
歴ぬ物ハなましきれと見えておもひて侍し事ハ今
一重の事にも歌ハ前の句に付る事ハ安きまてに
一句にも見えてかくてハいかに付なりとし給ハおもれ
ましきや物心のとしろ見讃すへき事也谷一なとハ
たしかにきてやすきもとくもなるひのこゝろなれて
おりひとれ一つしきや給へし
秋にそ我横川乃のるハ木うきまて

鶯の行くも乃竹母妻こめて
旅乃宿とすしかも雨最添
夕暮乃ましき乃鳴乃母とめく
周竹
此句前にありしひとしうしく付侍り一句乃志ゆえそくし
ゆふくもの離ハ山と見てなんも古とも歌の詞をかへ
あとの夕暮ありし母我とめく旅の宿とをよとしてよき心たて
たにきこて侍り是をあまたして別に付侍らんにとやま
大事に侍り奥州の名所斗りにて付ん事ハきこし
とおもひ色を見れとして談略なり侍る千
さらにさむし衣にと独寝のか風

Nagoya University Library

しかの浦より河原院の事ハとゝ付らる事
なるもおしそれハさまを叩へたくハひとしてゝ
しと是作り河風さむし一衣を山ゝとゝ古今り
あきハ旅衣のゝくさむしうしんは宿かりまほ武人
ものゝ川ゝ
ゆくゝ車ハ世界ふあり
おちゝ井ハ原山かをハ小篠原　周行
志力のゝこゝろをくゝ車ハたゝ
事乃あ内ゝ見し一白乃ゝて面白行ゝ
ちゝへて付ゝんゝ関大変ふ行ゝ山ひとあゝ世ねこ

ゝなれといさゝうあるゝて下行ゝ
河なゝハ御後すゝ内ゝ輪をゝて
ゝそゝ井ハ後の具ゝハ拾行ゝ世界ハゝまゝゝる秋心
ゝ相對ゝゝあゝひゝ世行ゝ
神のゝゝりゝゝゝゝ
山のゝ井紅葉をゝゝゝ秋の唐　松行
松行ゝ歌ハ奇ほゝしの作者行ゝ大ゝ歌をハゝ
連歌ゝハゝくゝ世ゝ歌をハゝ世ゝゝ奇ハ世
くゝあゝゝひや宗家隆なゝ井ハ時分の連歌を
續歌ハ神ゝ今ゝ井ハよゝゝ世ゝゝ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
16 / 29

Nagoya University Library

其文字より又うれはなき行をやと
　　をもそく庭小杉うゑ侍る
　　花ハ紅葉の在りしおもかけ風情なき抜なれと春秋を
卿各別すへしさや又神上小浦をとゝ神話し侍るハ
そもそこうこと侍る也柳前句夢を渡う
毒其種の言葉といひしものを寸きわらもしとき回
文其詩を神小織分て其方へそうし事ならそ
おかゝ行るその心りてハ鶴廻し行ゑ人しし又
　　かゝ出乃ゑ小色といふ名のあ利多
巴江乃の三曲小なるれて巴の字小似る事なんを行る

　　紅葉其色のゆゑんかなること
　　雲かゝるやゆゆ川て其村しれ　　松竹
ゆつて其村時雨一ふりなまくあらしに法の其ことな
もと一句事のせ行るへし此前其句ハこゝ行るる事し
なけもとゝ句くし行るんか
　　東りく其檜原の山ハ桃しを
　　人麿しり似てをやもん
　　柳のかをなるふなく蛙　　名古屋
芝冷泉中納言為相卿の也歌や詰計して分行る
これはさし会行るハいく分行へき例の法事歟

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
17 / 29

Nagoya University Library

白すなはちこれもて〻の新のまゝ
柳本のすゑを繪かきて新伝れ給へうなとゝ
事ハ俊理卿文影卿の帰らるゝ世るゝ
流布世間人九〻讃ハ初伝れ時小敦光朝臣
書給ふとそ長歌小あり首〻行きそ
人麿ゝそハ歌人の神をつゝ和歌を
世行り新の前ハ歌人の神をつゝ和歌を
吟咏を同心人りあるへきやや
大和なるゝ横雲こゝて
吉野山ハ横雲人麿の同り雲のこゝ

ゝ同ゝやたるゝつらよあるゝ
柳殺り色とふりてゝ
色ゝゝ房ゝ匂ゝ枝ゝのも歌ハさのゝきゝたる
ゝとハなきれゝゝ匂ゝゝうゝて真行ゝ面なれて奇
侍り柳殺りゝさゝ世ゝゝ殺れ雪ゝ以れきゝ
小ゝゝゝの祢ゝひ斗ゝいゝゝゝ又ゝ祢ゝ行ゝ
すゝ月日小老ゝ年ゝきゝ
徒りすゝ月日ハ有りて奇ゝ世ゝ窮老れ
時ゝ行り初ゝくハなゝれ葛ゝ世ゝ月よたゝ
成へ

六條前内府

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
18 / 29

Nagoya University Library

行ふ人をしらぬ色なれど

しるべする友こそなけれ山の連樹　　佛法師

吉野なる山とは川の名にて時鳥の鳴て時なる山ける

ゆへとよめる万葉の歌をおもひよせて吉野なる

文みるとて事行なむこと真あるべきなり

のこれるは連樹といひしを前尾相應せるう

や例の又はたらく歌ゆへ

藤なみ春行あるの瀬をせきて

古今歌に瀬をせきハ水なりとあるとこそ

行なるべしたゝハおほえ侍

かこけすくるを忘れぬ

一行道をやはらすてらすん　　橋井二郎法墨

これハ一行禪師の次第國人なるを行時九曜の

曼陀羅をうゝさもこうこゝろ事を行ふ

共事とおほえ侍又法の事なれと一句ハ合

侍へ

芝さく池の鴨うけのすゝて

むら雨に角そそゝれ

すゝしき浦うらかすむ清涼殿　　牧行

又筆のすさびに一句

Nagoya University Library

おえて花心関にあるべの後山

何事にあるそひうあるを帰るべ

ゑにうき葉を角のうへなる　良行

代々端半に角うへ雲脚の二図のおりてけり

そこの事荘子といふ古分てうそをを義角り

こうなりけりやあるそひよんさく又用みに相論

をおりひとをけく

人をうく小田にのくら

をゆへ山乃行く小きたり

分をすつる人にあるよ仏法　教海

連歌ハ以ていとかれりうそ法を用ひ仏を見小

乃分ての事ハ文をるく仏をとら拾会

るく當座をうら仏ハ分の事ゆをもりへき

や

御芳野に月ゆ乃人へく給て

石農うへて金すをひよりう

公にてうちるふゆひのさき　教海

代々ハ法くそに祇諧の新りて入うり迷真をうに

あるおう人生にすをひ

そうを稽のいそに仏日り聖りて

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
20 / 29

心のなきさと思ひえてこそ

勅なきとハ名としらさきのあらたまく　教訓

公佐乃瑞鳥の因縁先兆の聖代乃すこしひつゝ邑

たる国史なれ小ハ弾きて見ん及作る前の句ハ将

なきしハたゆにく侍るへし

上戯吟風りし草木やなりなん

墨戯ひくうて見揺るくらうを

あり〳〵花ちきやる梅との踏あり　良行

筆のすさひの一句

うすくこきも霞を山のもようして

山升まてもらうとハ定成色こきりや

鶯の子乃なくしきひとく

おやの名字か一としやころうん　嵯峨法師

是と筑波の誹諧の部世に入らう其ハいつよう

てうさ和歌ハ下の才乃一字を文ころとぞ

支ハあくしてハ面白あり又作る前の句ハ前の続哥

乃誹之故して小ハを呼ぶ歩人さにをの例の文

卯花ハ梅農いのに流く雪なれや

小鳩りかる宿の河舩

橘の其ほそかう月かよ風すきて

後光圓枝政

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
21 / 29

Nagoya University Library

源氏乃心おとらしなくきてて作り色小又風情を
ゝく常の事なるとはしらせ世作りて
心さえうれたる姫の行衛をして
知りたる樵乃を山しり書時て
八幡しるまゝ山ゆれ
箱湾や乃やれ月の面れうこと　救済
ゝるゝ行ゝ称と大ゝ行ゝ
十あまり六代乃御門ゆれこゝく
應神天皇八人王帝十六代の帝ゝ由民
祈ゝゝゝゝ事作る也

山ゝ之ゝ也れ
うゝ月冨嶽れ称ゝ　救済
たゝ木れ称ゝゝゝ心真ゝて行ゝ又い
川ゝれゝなる也ゝ
谷れ戸八雲ゝこの也れこなゝて
草の名也ゝゝゝゝゝゝ
雅彼れ芝也八伊勢れ面れ　救済
こゝ也八行白れたゝよ前の白を口さゝれゝゝ桜小
作也ゝ也真ゝ面れ新ゝて書の世作り伊勢物語よ
後冷殿れゝさゝ桜ゝゝれ人れつゝ口ゝ忘

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
22 / 29

草志のふ草ふしやゝふそていさ世ぬ人のと書きハふし
あらしこと哉たりひおしいさうら又ゝ作り
斬のしみふハ人の手すさひ
あいさくらけうら谷の余
筋小そ出あころハこゝろかくありて　後普光園殿
又かうらしかうさ孔車なれとあいとふりとハら
利と
又是れ中あり哉らしりて
十五とたのとなれ世や　良将
高此子のすとり此ある小者とえ有て

此句らし又風うかさ人て作人し
月小さ此ゆきそうしらねハまとりて
牛ありなき哉らやう馬か鄙
夜ハ昼ハさうしかう時なきや　順覚法師
此句ハさうたのさいたう系と作るあこれよ又佩哉り
へく付句んハいさうもうしく先作り
後ぶさくらしれやうし花の山
又誹諧此一句ハ発句乃次なり
ち雨さゆふおろかさらう此花さきて
なきくた小秋此心を深とれを

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
23 / 29

Nagoya University Library

山ハ星ふし庶やすくらの車　後普光園殿

七句ふちさ拾遺ハ時雨ふり　紫てしと

句ふ別ふり　分行

為農令代の月乃くれ

移ふむ四やふふしなるん

巣をかふ花ハ行ハ春くらん　宗祇

宗祇法師ハ近代の作者ハて作り為ふ友たるふう

てたゆ一句をあ之作ふ書ふ作ふや

ハ前句の四ハ言ふさ歌ふ也及作

ふ　人移ふむ女四ハ花丹ふ世　ふ也

教師　月そあくなる梅ハうたなり　と分行

ハ四ハ花ハこてひ分行人ふ

くきふ作りこれふを也て又ふ

風情をふこのふ作人

梅花ふ車ハ牛ハ角あて

源氏ふ御墓所ふ車あて

ひをふ乃六条ハ

一品ふて入金ハ角ふ

月よふ乃ふ乃ふ

そ作ふ乃ふ面ふ

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
24 / 29

小野ひなまさ人麿の絵乃梅花　宗砌

梅の花と云こゑて前の句にけて付侍りしとて
なきうりあらはに見れ小文おりひろうたる心えへきこ
之句とぞ侍るべし

うち河る池の鏡ハこさひめて
霜まよふきえくやかうれぬて
花のいろのたえしを雲よそめて
たちまちさとハたて松の風
猿小あはれこのくおふ山乃ほまかはや

後普光園摂政

文和二年六月廿日中川かなる事ありて美濃
国ありし御下向し云所行宮にて侍りしに同七
月坂本にて連歌し侍りあるとかへ柳我君をこ
とし此旅乃はかり本宮をさしせ給ひて宮こちう
きありハとりし御としくれと是し行宮の御すまゐ
ことなる心さまも文和のむかしをおもひあはくうき
秋の句とし書付侍り

むかしを今とかへり宮の月

長き
秋の夜月ならひゆらすことに小みえてしし皇
花の雲の色とやみえて雪は小吹すして風あら

Nagoya University Library
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
25 / 29

Nagoya University Library

四〜きこの屋とゝの人目ハうもぬすまゝ人さうき
はれ夕まぐれ〜うさとなりぬその名り
おもゝ〜れ音信と風の便り　約束も屋きく
農藤なくこ苔ゝと立あめ人さこの葉れ数の
ゆ玉ぬ〜つゝ〜ひて〜こと世よ及ふ〜糸れゝ〜ゝ
四〜きゝゝりひゝゝそ志ゝ〜ハ忘水心の底と
あゝそゝく所ぬあ世て者ハいち
〜ゝき春日山やまゝ〜ゝ世めゝ〜ゝ〜ゝ
小光ハやゝ〜きて木ゝゝ御代ゝかゝ〜ゝゝや

也哥

ゆゝを山あゝけハたゝきゝゝの葉れ数を遊れゝこき
文あきゝゝ形ゝゝれゝゝ志ゝ寸ゝけゝきゝと
〜こ手法のゝゝきこれ一帖を忘いゝん〜ゝ代
いてふ木ゝの長哥に御筆と深き世おゝ
て也〜下されゝり

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
26 / 29

Nagoya University Library

本奥書に一條大閤被自筆文明四年六月上旬
或人此奥書被所望し次粗加一見し畏
倣字雖多サ、者是悟分改直す雅
ふ審事ハ亦或仁備用来送し直こ
志布

一条大閤　桃花被判

朔日　あさ風小袖うすき雲乃れ
四日　秋久し秋ハ屋とうす御う器
六日　松ふけて吹や野風ハ袖ら袴
十日　野ハしろさ尾花乃波の夜ハ月
十日　宮やの月すむ秋ハ年乃れ
十日　深草行月ハすさまハ気ハ
十日　あさ霧の花ハ色あふる種ふ
十日　ハあやハ草しらくる時ふ
十日　むすんてしら露ハけ行さ草
十日　ことハ家ふの色ハそうハ年ま
十日　花ハ移人吹しくハ風ハ草もろ
十日　色ふあ露このてかハそうハ
十日　小車ハ鳥やたく農ゑくハ

神宮皇學館大學
28568
昭和20. 1. 27
圖書

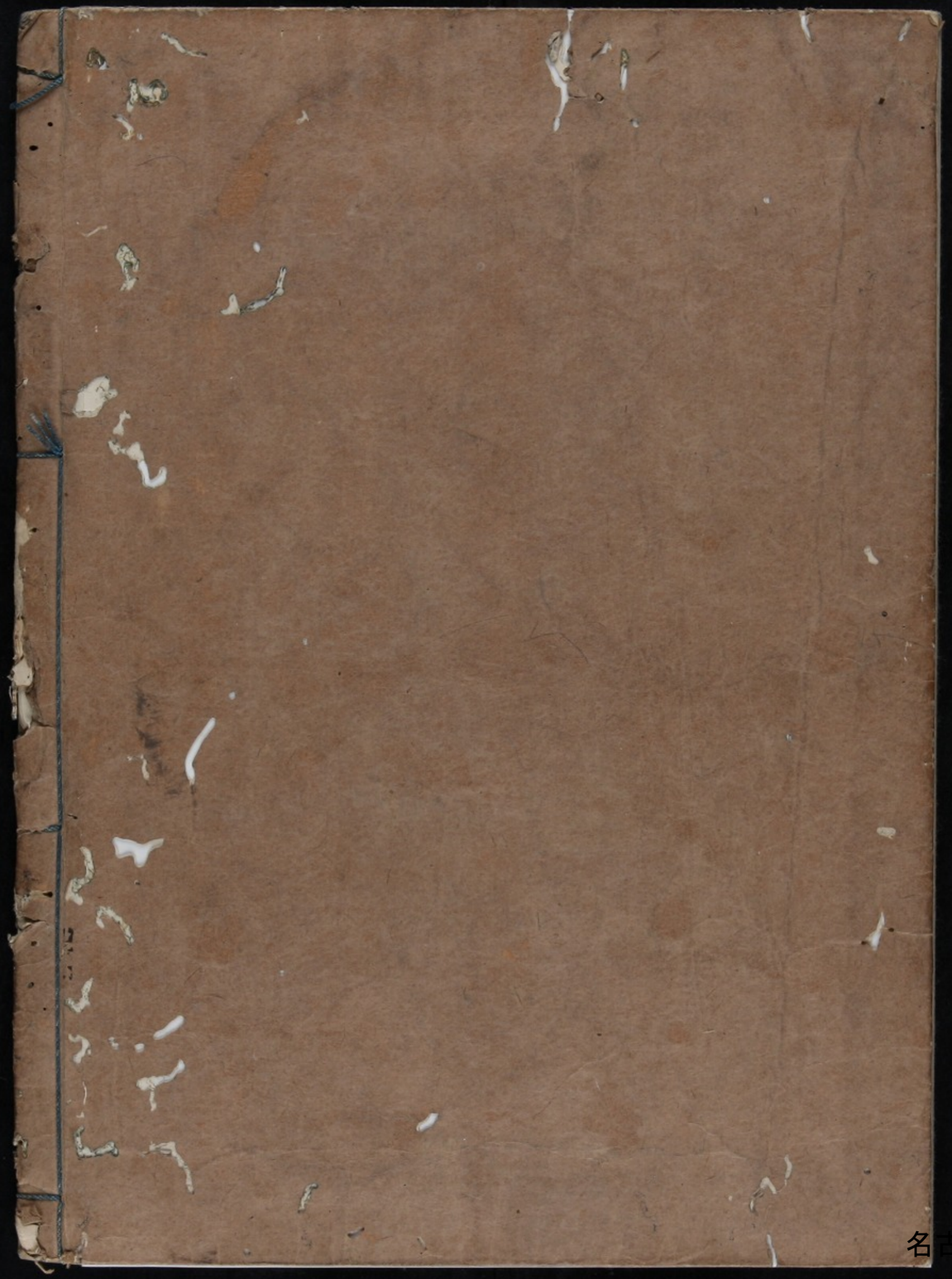
名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
27 / 29

Nagoya University Library

334
9

名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
28 / 29

Nagoya University Library



名古屋大学附属図書館所蔵　神宮皇学館文庫
「筆の愛」
10044016
29 / 29